



各 位

平成 20 年 10 月 21 日

会 社 名 日立マクセル株式会社
代 表 者 名 執行役社長 角田義人
(コード番号 6810 東証・大証一部)
問 合 せ 先 法務・広報部長 春日義行
(TEL. 03-3515-8283)

特別損益の計上および業績予想の修正について

当社では、平成 21 年 3 月期第 2 四半期において、特別損益の計上を予定するとともに、平成 20 年 4 月 25 日に公表しました平成 21 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間および通期業績予想を下記のとおり修正しましたので、お知らせします。

1. 特別損益の計上 (平成 20 年 7 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

特別利益としては、当社が保有する遊休設備売却による固定資産売却益約 100 百万円、過年度に計上した未払費用において、支払いの可能性がないと判断したものを取崩したことによる未払費用戻入益約 550 百万円など、計約 750 百万円を計上する見込みです。

特別損失としては、経営効率化に向けた事業拠点の統廃合などに伴う費用を固定資産減損損失として約 1,950 百万円、昨今の米国金融危機の影響などにより当社が保有する債券等に関して発生した投資有価証券評価損約 1,400 百万円、老朽化設備の減却による固定資産除売却損約 200 百万円など、計約 3,600 百万円を計上する見込みです。

2. 平成 21 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日) の業績予想修正

(単位:百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四半期純利益(損失)
前 回 予 想 (A)	106,000	2,300	2,400	200
今 回 予 想 (B)	98,000	2,300	3,800	△900
増 減 額 (B - A)	△8,000	±0	+1,400	△1,100
増 減 率 (%)	△7.5	±0	+58.3	—
【ご参考】 前期第 2 四半期実績 (平成 20 年 3 月期第 2 四半期)	101,800	2,518	2,409	364

3. 平成 21 年 3 月期通期（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）の業績予想修正

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益(損失)
前回予想（A）	220,000	6,500	7,000	2,400
今回予想（B）	200,000	3,500	5,200	△800
増減額（B－A）	△20,000	△3,000	△1,800	△3,200
増減率（％）	△9.1	△46.2	△25.7	—
【ご参考】 前期実績（平成 20 年 3 月期）	209,359	6,464	5,534	1,671

4. 業績予想修正の主な理由

〔平成 21 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間〕

売上高は、競争激化による製品価格下落の影響などにより、平成 20 年 4 月 25 日に公表しました前回予想を下回る見込みですが、営業利益については前回予想とほぼ同額の数値を達成する見込みです。経常利益は、為替差益の計上などにより前回予想を上回る見込みですが、一方、四半期純利益（損失）については、特別損失の計上などにより、前回予想を下回る見込みです。

〔平成 21 年 3 月期通期〕

平成 21 年 3 月期第 3 四半期以降、米欧の金融危機の影響によるグローバル経済の減速や円高、製品単価の下落などが予想され、通期業績は前回予想を下回る見込みです。

以上

（注）当発表資料中、過去または現在の事実以外に関する計画、戦略など将来の業績の見通しにつきましては、潜在的リスクや不確定要素を含んでおり、その内容に確約や保証を与えるものではありません。これらの見通しは、現在入手可能な情報による当社の判断によるものです。実際の業績は、今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、その他の経済、社会政治情勢や偶発事象の結果など様々な要素により、これら業績見通しとは、大きく異なる可能性があることをご承知おきください。